

祝祭日には   を掲げましょう。

広報かねやま 1月号/2004 (16)



▲地区の親睦を図る祭りごと（写真は球技大会）

ふるさと回顧録 ⑦

朴山地区の祭りごと

朴山地区は、町の中心部から西に約3km、猪の沢川を主流に真室川町との町境まで広がりが見られる、平坦な農地が続く農業が盛んな住み良い地区です。

金山町の中でも耕作面積が大きく、個人での稲作耕作面積が町で一番大きな方、自分で生産した農産物を産直・契約方式で販売している方、きゅうりの収穫期間を延長し多収する高度技術を持って農業経営している方などが多い地域でもあります。

毎年8月17日には、金山農協倉庫の隣に位置する観世音様の祭礼に合わせて、村祭りを開催しています。にぎやかに、盛大に、華やかに約3時間にわたって行われる祭りです。いつ頃からその日が村祭りの日になったのかは定かではありませんが、現在では地区の文化部が中心になって実行委員会が構成され、スケジュールの組み立て、予算編成を経て各部門ごとに作業が進みます。

最近では、カラオケ装置の手配と、それに新しい曲や人気がある曲が入っているかが求められています。また、抽選会の準備やいかに参加者を楽しませ、予算内でやり繰りができるか、たいへんな役

割です。提供する物はすべて無料ですが、焼き鳥やこんにやくなどの人気商品以外で、天候や気温に左右されるアイスクリームやビール・ジュースなどを時間内で消費する分だけ準備することは、予算に大きく関わってくるため、非常に判断に悩む部分です。

当日は午後から会場の準備に取りかかります。祭り開催までの30日以内に地区内に不幸があった場合以外は、20代から60代を超える方まで、天候を問わず開催する祭りのために工夫をこらし準備します。そして、それぞれの担当が当日の夜に準備した物を残さず消化されるよう、巧みに動くのです。

この日以外にも、6月のさなぶりに隣組対抗の球技大会を行い、交流を図っています。子どもからお年寄りまで、また地区から離れて暮らしている方々の元気な顔が見られ、話すことができる唯一の機会がこの祭りです。

人と人との関わりが少なくなっている現代において、こうした地区内の祭りごとを通して、人々とのつながりをより一層大切にしていきたいものです。

（朴山 柿崎 真一）

編集後記

本格的な冬が到来し、待ちわびた神室スキー場の営業も始まりました。雪の少ない年末年始となりましたが、各地でスキー大会も始まりました。そして2月21日からは、山形もがみ国体が始まります。出場する人、応援する人、スタッフなど、様々なかたちで参加する方々が多いはず。体調管理にはくれぐれも気を配りましょう。平成15年度の町づくり直通便の有効期限も迫ってきました。こちらでも有効に使用してください。（英）

遊学の森(2月)のイベント

「アニマルラッキング・雪遊び」

日時 2月15日(日)・22日(日) 9時30分受け付け開始

定員 30名

参加料 500円(入浴券・昼食込)

内容 冬の野山をスキーや自分で作ったかんじきを履いて自然観察をしたり、動物の足跡さがしをします。また、巨大かまくらづくりなども行います。

締切 それぞれ開催日の3日前まで

会場・問い合わせ先 遊学の森「木もれび館」 ☎64-3305